



昔も、今も、これからも。

海は生命の母。生命の誕生から、
今日、そして未来へと続く海の命を守る。

▲昔も、今も、これからも。| 清水 まい子

このポスターは、MSC（海洋管理協議会）の依頼により、家政学部 建築・デザイン学科 林田ゼミナールの学生たちが取組んだ課題作品の一つです。MSC（Marine Stewardship Council）とは、減少傾向にある世界の水産資源の回復を目指し、1977年に設立された国際的な非営利団体（NPO）です。本部はイギリスのロンドンにあり、日本事務所は2007年に開設されました。認証制度と「海のエコラベル」を通じて、持続可能な漁業普及に取り組んでいます。2014年11月現在、世界で約240漁業がMSC認証を取得しています。



共立がいま進めている、 環境学習への取り組み

近年、日本では“環境”問題が改めて注目されています。

共立女子大学・共立女子短期大学では、環境問題の諸相をテーマにした授業をはじめ、自然科学系、人文・社会系、実学・スキル系などのさまざまな学びを組み込んだ、すそ野が広い、特色のある環境学習を行っています。

本学の環境・防災に関する授業・取り組みの一部をご紹介します。

Message | 学長メッセージ



共立女子大学・共立女子短期大学
学長 入江 和生

近年、世界中で大きな自然災害が頻発しています。自然が人間の手に負えないものになってきているという印象があります。でも、もともと、人間こそ自然にとって手に負えないものであり続けてきたのです。

人間も自然界の一員ですが、ややもするとその自覚が薄れてしまうところに問題があります。環境問題とは、つまるところ、いかにして人間を自然界の一員としての定位置につけるか、ということなのでしょう。

本学は以前から環境問題にかかわる授業が多く、本学学生は「自然に」環境問題についての見識を深めていますが、これからは、それをもう少し意識的にやりたいと考えています。

環境教育は、深い意味での人間教育なのです。

Project | 本学の取り組み

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトとの連携 ミツバチを活用した未就学児の環境学習

1. 目的

ミツバチは社会性昆虫とも言われ、一つの巣に群れて生活し、巣内の掃除から子育て、巣の造成、ハチミツの貯蔵、花蜜集めなど分業で行います。その生態は、子どもに人気のあるカブトムシや蝶とは違い、人と同じように、「家族に育てられ、コミュニケーションをとり、共に生活し生きていく」という昆虫でありながら共感できる部分が多くあります。また、人間が集めることができない花の蜜でハチミツを作るとともに、私たちが食べる果物や野菜などの受粉に大きく貢献してくれています。

将来を担う幼い子供たちに分かりやすいよう、いきなり遠い世界の話から始めるのではなく、ミツバチを通して自分たちの目の前にある足元を見つめる環境学習を目指します。

ミツバチは、環境の変化に弱いので、環境指標となる生き物です。しかし、このミツバチが世界中で大量に減少しています。これは蜜源となる植物の減少、寄生虫、農薬、ウイルスなど様々な要因で減少していると言われてます。

銀座のビルの屋上で飼育されているこのミツバチを利用して、多感な幼少期に花と昆虫などの関係や、受粉など命の巡りを学び、環境の大切さを知ってもらうために、イベントや出前授業を通して、色、味、におい、音、大きさ、形など、ミツバチからいろいろなことを感じてもらいたいと思っています。都会に棲むミツバチと都会に住む子供たちが出会うことで、身近な環境に気づきをあたえ、いろいろな生き物がいて、生き物との付き合い方や、小さな生き物たちに人間が支えられていることに気づいてもらい、まずは観察すること等から始めるアクションにつなげていきます。

2. 協力主体

NPO法人銀座ミツパチプロジェクト
共立女子大学家政学部児童学科、共立女子大学家政学部児童学科の学生有志

3. 協力期間

平成26年度及び平成27年度

4. 活動地域と対象者

- ・中央区・千代田区・文京区の幼稚園および保育園
- ・中央区・千代田区・文京区の親子（未就学児とその保護者）

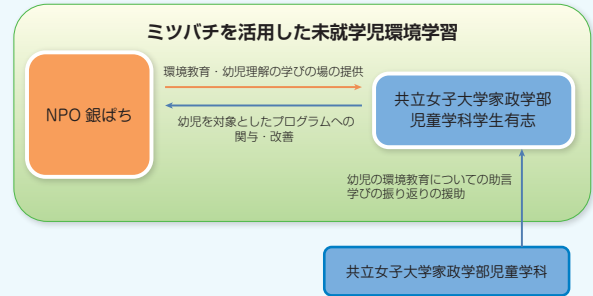
5. 活動内容

銀座ミツパチ・プロジェクトによる出前授業の環境教育プログラムの中で共立女子大学家政学部児童学科が出前授業および親子ミツパチ教室の実施協力をしました。

具体的には、共立女子大学家政学部児童学科の学生が出前授業や親子イベントで、幼児の世話をするなどして実施運営に協力しました。また、共立女子大学家政学部児童学科の教員が、出前授業等のプログラムへのアドバイス協力を行いました。

6. 今後の活動協力

- ・大学が持つ児童教育の知見と、銀座ミツパチ・プロジェクトが培ったミツパチを使った環境学習を融合させて、より効果的なプログラムの開発を行っていきます。
- ・大学と銀座ミツパチ・プロジェクトの連携により、より効果的な幼児教育のプログラムを構築し、各地域のミツパチプロジェクトも使えるような教材の開発に取り組みます。
- ・ミツパチを使った環境学習を、幼児教育および、これから幼児教育に携わる指導者育成のツールとして発展させていきます。
- ・親子同時にミツパチについて知ることで、親子間の会話をより充実したものにし、ミツパチの正しい知識を親御さんたちにも共有してもらいます。



Report | 共立アカデミーレポート

Report 01

「銀座ミツパチプロジェクト見学会」

平成26年5月12日(月)、エコツアーの一環として「銀座ミツパチプロジェクト見学会」を開催しました。

紙パルプ会館をはじめ銀座のビルの屋上では、年産1トンを超えるハチミツが作られています。活動開始から9年が経過し、コラボレーションの輪が次々と広がって、地方の農村の生産者を応援するファーム・エイド銀座の開催、無農薬のハーブや野菜の栽培、ミツパチを通じた環境学習活動なども定着しました。これまでの取り組みとして、代表世話人の田中淳夫氏より、プロジェクトの成り立ちから、ミツパチの生態、養蜂を取り巻く国内外の状況、現在の活動内容、ミツパチだけでなくビジネスとしての農業や地域づくりなどについて説明していただき、たいへん興味深く学ぶことができました。

このプロジェクトの取り組みは、いろいろなメディアにも取り上げられ、欧米のみならず中東やモンゴルのテレビ局も取材に訪れるほど注目されているソーシャルビジネスです。認知度も高く、多くの賛同者を得ています。今回の見学会を通じて、その理由がよく理解できました。

田中氏のお話を聞いた後に屋上の養蜂場を見学し、最後に昨年秋にオープンしたテラス菜園「銀座ビーガーデン」に案内していただき、銀座産ハチミツ・マドレーヌとビーガーデン産のミントティーを美味しくいただきました。

納得と満足の日でした。

この講座の直後に、「幼児を対象とした環境教育活動」について、本学の児童学科の学生がボランティアとして参画し、先生方もアドバイス協力するコラボレーションが実現しました。



Report 02

「個人で備える防災対策」

家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻 4年
杉山知穂

平成26年10月11日に「個人で備える防災対策」の講座に参加いたしました。

日本では、9月1日の防災の日を中心に、組織で行う防災訓練等は学校や会社でよく実施されています。それに対し、個人でどのように災害に備えるかという訓練や講座は、あまり行われていないのが現状です。

この講座では、個人や家族が災害に備えて心得るべき行動や対策を、今までの災害を振り返りながら、参加者と学び、共有することができました。その時に参考になるのが、登山の知識や備えであることを初めて知り、大変興味深かったです。また、体験学習として、テントの設営等を行いました。普段触れる機会の少ない防災用品は、災害時に使用方法が分からず、支援物資として届いても放置されてしまうことがあるそうです。実際、私も先生なしではテントを立てることができず、今回のような機会は大変重要であると感じました。そして、防災対策には、普段から様々なシーンを想定し、身につけた知識や意識を実行に移すことが大切なのだと学ぶことができました。

私たちの暮らす日本という島国は、災害の起きやすい土地です。いざという時に落ち着いて行動できるように、日頃から災害に対する心構えを身につけておき、備えを怠らずに生きる大切さについて、改めて考えさせられた1日となりました。



家政学部
建築・デザイン学科
林田 廣伸 教授

1976年多摩美術大学大学院美術研究科修了。
外資広告代理店のアートディレクターとして21年間勤務。
毎日広告デザイン賞、ニューヨークフィルムフェスティバル
銅賞、ACC賞などの各種広告賞を受賞。日本デザイン学会、
日本広告学会所属。現在も忙しい合間をぬって公益性のある
事業やNPOのポスター、マークなどの制作を行っている。

主な担当科目

グラフィック・デザイン演習、セミナー、デザイン概論ほか



CIと共立女子大学 林田ゼミ協働展示・発表会

これまでに、地球環境パートナーシッププラザ（環境省と国際
連合大学の協働事業として設立）、東京・銀座ソニービル、ト
ウキョウマリンニチドウギャラリー、世界銀行情報センター、
JICA地球ひろば、丸の内・住友信託銀行、スターバックスコー
ヒー・ジャパン銀座マロニエ通り店、三菱地所丸の内さえずり
館等で展示と発表会を行っている。

グラフィック・デザインの手法を使うことによって、 より環境問題を理解していく

Education policy 生活者の目線で「環境」を考え、メッセージを発信すること

家政学部は人間がいかに生きていくかを探る
場であり、そのために必要な知識や技術を学生
が習得できるよう、私たち教員は道筋を立ててい
かなければならないと思っています。私はグラ
フィック・デザインという手法を通して、もの創
りの目的を学生たちに理解させ、どのようなもの
を創り、どうメッセージしていくべきなのかを体
感させる責任があると感じています。

毎年、国際環境NGOのコンサベーション・イ
ンターナショナル・ジャパン(以下「CI」)と協働

でポスターの制作と発表を行っています。環境
問題の難しさは、ほとんどの人が環境問題には気
づいているけれども、行動を起こしづらいこと
です。「今、私たちになにができるのか。」共立女子
大学の学生の素朴な等身大の視点でポスターを
制作していくことで、展示作品を見てくださる皆
さんとともに環境問題のキャッチボールができ
るのではないかと考えています。家政学部で学
ぶ環境とデザインには、そういった大きな目的と
使命があると考えています。

Main class 広告制作のメソッドを活用して、公益性のあるテーマに取り組む

2003年から、地球温暖化や、水と衛生など、
環境をテーマにしたグラフィック・デザインの取
り組みをゼミで続けています。2005年から現
在まで生物多様性をテーマにCIと協働展示と発
表を行っています。

テーマからどのようにしてアイデアを導き出
すか。それはキーメッセージとキービジュアル
をしっかりと構築することです。そしてそれを表現
するデザインの技術が必要です。勿論、これがな

かなか難しいのですが、これらを導き出す広告制
作のメソッドを用意して、学生に理解させ、それ
らを活用することにより、単なる感覚ではない作
品ができると信じています。作品制作のプロセ
スは彼女たちの環境意識を向上させます。この
大学を卒業して、社会に出ていった時、また家庭
をもった時にも、環境に対する気持ちを持続し行
動につながっていくことを、私はいつもイメージ
して授業に取り組んでいます。



国際学部
国際学科
細野 豊樹 教授

1994年東京大学大学院法学政治学研究科修了。公共政策学修
士(MPP)、法学修士。研究分野は政治学、アメリカ研究、環境学
など。環境庁での行政経験と専門知識を生かしながら、アメリカ
合衆国の環境政策や地球環境問題について、研究・分析を続け
ている。またインターネットなど、情報技術が政治に与える影響
についても研究。最近の主な業績に「気候変動の科学をめぐる政
治——アメリカと国際機関における政策論議のモデル化」、「ア
メリカ現代政治の構図」、「オバマ政治を採点する」などがある。

主な担当科目

環境・科学の諸課題、政治分析の基礎、アメリカ文化論、
地球環境論ほか



住民の要求で作られた市街地再開発事業の模型

身近な環境と関わる公共政策の策定において、行政および事
業者は、複雑な計画を市民に分かりやすく説明する責任を負
う。写真は、横浜市北部の駅前再開発事業の模型。イラスト
では不十分だとする住民意見に応じて作成された。

環境問題についての知識を体系的に伝え、判断の基準を養う 自分が住む街の環境を調べ、参加型の意識を育む

Education policy 環境リテラシーの意義、争点につき判断する市民としての教養

3.11以降、日本における環境・エネルギー政
策は曲がり角にきています。こうした中で、市民
からの政策へのインプットが、今までになく重要
です。真の「政治主導」とは、官僚任せが政治家
任せになることではありません。市民の声が、政
治と行政を動かすことなのです。

政治主導が強くなっていくと、市民の環境リテ
ラシーがますます大事になります。地球温暖化

対策にしても、原子力の安全にしても、賛否両論
のさまざまな意見が飛び交います。このため、だ
れが言っていることを信用できるかを、市民が判
断する教養が求められるのです。

共立女子大学では、こうした要請に対応すべ
く、理科系と文科系の専門家が、学問の専門性、
体系性を保ちながら、わかりやすい環境学習に取
り組んでいます。

Main class 身近な環境問題から入って、知識を広め掘り下げ、自分の考えを持つ

本年度開講の「環境・科学の諸課題」は、政治
が専門の私のほか、理科系の先生方2名による3
クラスです。私の授業では、典型7公害(大気汚
染、水質汚濁、騒音など)を始めとする基本を、環
境の基準をめぐる科学と絡めて、国際比較も交え
ながら、わかりやすく講義するよう努めています。
教養教育科目は、3・4年次生も受講対象なので、
わかりやすさだけでなく、密度が高い内容を盛り
込むことにもこだわります。近年、福島第一原子

力発電所事故による放射線の健康影響も取り上
げていますが、専門家の意見が分かれる難しい問
題です。授業では学生にさまざまな論点からの
記事を配り、判断の難しさを伝えていきます。また、
問題意識、参加意識を高める観点から、自分た
ちが住む街の環境について調べて書くレポートを、
毎年課しています。身近な環境がテーマなので、
学年・学部学科を問わず、読み応えのあるものが
多くて嬉しく思います。

自分たちが日々、暮らしている“環境”を意識させることで、 社会の仕組みへの興味と自主的な行動力を養う

Education policy 街の話題、ファッションへの興味から「環境への気づき」を育む

生活科学科では、生活に関する実践的な知識・技能の習得を養成目的の一つにしています。私たちに身近な衣服、生活道具や空間は、とりまく環境とともに変化するという視点から、歴史や風土、経済や世界情勢といった社会環境が生活に影響を与えることを、まず理解してもらいます。同時に、演習や学外授業を通じて、地球や自然環境

といった大上段の環境だけが対処すべき問題ではなく、日々の生活や人々の装い、街や地域などの、より身近な環境について考察する必要性を教えます。ライフスタイルを変えることで解決できること、またその可能性を、学生一人ひとりが自発的に考え、行動できる主体になってほしいと考えています。

Main class 流行に流されないために流行を知る。環境とは何かも自分で考えていく

「生活デザイン演習」では、彼女たちに身近なスタジオジブリのアニメを題材に、環境を考える授業を進めています。『もののけ姫』では、人間が生み出した科学技術が森林や動物を消滅させてしまうという、自然と人間の相克がテーマになっていますが、娯楽として見てきたアニメの中で、実は語られていた自然破壊の現実を、自分たちはどう受け止めていくべきなのか。彼女たちの興味や感じたことの視点に立って授業を進めます。

教養教育科目の「デザインの現在」では、近代化とデザイン様式の変容を扱いますが、消費者と

して、時には生産者として活動する私たちが、現代社会の根底にあるデザインと消費の関係を考えるにあたって、ファストファッションと流行の問題や、「あなたのTシャツはどこから来たのか」といったグローバル社会を扱ったものを題材にします。

また、物理学者として著名なエイモリー・ロビンズの『分散型エネルギー社会』なども紹介し、直面しているエネルギー問題を中心に、環境デザインの重要性について考察を進めています。



短期大学
生活科学科

渡辺 明日香 准教授

1996年共立女子大学大学院家政学研究科修了。2012年首都大学東京大学院人文科学研究科修了、博士(社会学)。専門は現代ファッション・色彩・生活デザインであり、若者文化・ファッションやデザインをめぐるコミュニケーション・情報メディアとのかわりなどを研究している。また、1994年より実施しているストリートファッションの定点観測をもとに、人々や街をとりまく環境の変化を実証的に捉えている。主な著書に「ストリートファッション論」「色のしくみ」などがある。

主な担当科目

ファッション・デザイン論、生活デザイン演習、色彩学ほか



学生が親しみやすいDVD、テキスト

デザインする側や消費する側でなく、生産する側に焦点を当てたドキュメンタリー「女工哀歌」は、学生たちにリアルに響いている。また、カラー&デザイン研究室で公開している「ストリートファッションレポート」は各界からも注目されている。

<https://sites.google.com/a/kyoritsu-wu.ac.jp/streetfashion/>

社会でますます重要になっていく環境意識を、グローバルと リーガルを基準に読み解き、現在進行形の問題について考察する

Education policy 異なる文化を乗り越え、共通合意となった判断基準を学ぶ

私たちが環境問題について考えるとき、自分と自分のまわりから始めるのはもちろんですが、他者とのかわりに関するリーガル・マインド、そして世界がつながっているというグローバルな意識が大変重要なキーワードになります。環境保護と経済成長を両立させ、現在の世代のみ

ならず、後の世代の発展も持続可能にしようとする国際環境法を学びます。国家間の合意である条約が、いかにして成立したのかを考えることは、その底流を流れる法原則を知ることになります。社会に羽ばたく学生の皆さんとますます重要になる環境意識を育てていきます。

Main class 私たちが成し遂げてきた成果を学び、今日的な問題を理解する

「国際社会特論Ⅲ(国際協力)」の授業は、予防原則やサステナビリティなど種々の法原則に基づく環境保護制度を学ぶ授業です。環境保護は当然と感じている方が多いと思われそうですが、現実社会においては、私人の財産権の保護という法益も存在します。また、途上国には発展という課題もあります。環境保護を行うため、対立する法律上の利益をどのような形で妥協させてきたのでしょうか。この講義においては環境保護を国際法上の視点から捉えて考えていきます。具体的には、国際環境法が対象とする環境とは何かを

最初に学び、国際法の一分野として環境法があるのかを考察し、国際環境法がどのように発展してきたかを学んでいきます。成立背景、成立形式、義務の特徴、管理責任などについて、それぞれ専門的に考察し、また実際にあった事件、国際判例などを題材にして、より深く検討していきます。

その他にも、「南北対立を緩和する概念」、「環境保護と自由貿易は矛盾しないのか」「武力紛争という特殊な状況下で環境保護は可能か」など、今日的な問題も取り上げ、現在進行形の環境問題について理解を深めます。



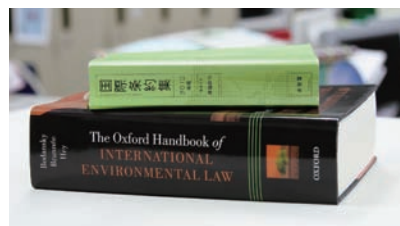
国際学部
国際学科

立松 美也子 教授

1995年上智大学大学院法律学専攻満期退学。専門は国家を主たる規律対象とする国際法。その中でも、とくに国家間構造の中で、いかに個人の保護を行うかをテーマとして国際人権法や外交的保護について研究を進めている。論文に「人権の普遍的保障」、「人の移動、難民」、「感染症」、「(以上、「地球的課題と法」所収)」、「公害」(「ヨーロッパ人権裁判所の判例」所収)などがある。

主な担当科目

法学概論、国際法I、国際組織論、国際社会特論Ⅲ(国際協力)ほか



授業で使用するテキスト類

『国際条約集』は環境条約すべてを網羅してはいませんが、度々利用することになる。授業終了時にはポロポロになってしまいうことも。事例によっては日本語の翻訳がない。自ら翻訳することは背景を読み解くためにも必須のプロセスだ。



家政学部
建築・デザイン学科
松本 年史 教授

1977年、東京芸術大学大学院美術研究科建築理論専攻修了。博士(国際文化)、芸術学修士、一級建築士、構造設計一級建築士。大学院修了後、木村俊彦構造設計事務所に入社、建築家とのコラボレーションで多数の建築設計に携わる。1988年、松本構造設計室を設立。1999年より2011年まで東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授。2011年より共立女子大学家政学部建築・デザイン学科教授。

主な担当科目

構造力学、構造計画、構造設計、建築材料 ほか



月山志津温泉「雪旅籠の灯り」ワークショップ

雪の旅籠を作って、昔の月山志津温泉の町並みを再現するイベント。他の雪まつりでは雪を積み上げて作るのに対し、自然に積もった雪を掘り込んで建物を作っているのが特徴。雪は溶けて水となり、周りの木々や作物の成長を助ける究極のエコ材料。地域の特性を生かした活気あるイベントとして、第13回「ふるさとイベント大賞」で最高賞「総務大臣表彰」を受賞した。

資源やエネルギーの使用や廃棄物を減らし、環境再生を最優先する「持続可能な社会」に求められる建築と構造を考える

Education policy 持続可能な社会に求められる大学教育

「持続可能な社会」に求められる条件は、「①生活の質の向上、②環境への影響の削減、③公平性の実現」の3つであると考えます。この問題に対する最近の社会の取り組みを見ると、「②環境への影響の削減」が主要テーマとなっていることが多いと感じますが、3つの条件がバランス良く充足されて初めて「持続可能な社会」が達成されるのではないかと思います。

家政学部は、この3つの条件の「生活の質の向上」に深く係わる「衣・食・住」環境分野の学科で構成されており、これからの持続可能な社会を達成するために重要な役割が期待される学部であると考えます。建築・デザイン学科は、「住環境の向上」に係わる問題を、建築とデザインを通して解決していくために必要な知識を身につけ、社会で実践していくための応用力を養う教育を行っています。

Main class 持続可能な社会に求められる建築教育

高度成長の時代の中で、日本の建築は高品質な材料と高度な建設技術によって、大きく発展してきました。しかし、高い経済成長と引き替えに、解決しなければならぬ環境問題や社会問題が生じています。

環境問題では、地球温暖化への対策として二酸化炭素排出量の削減が求められています。日本は世界第4位の二酸化炭素排出国であり、その1/3は建築関連のものであるといわれています。建築分野での二酸化炭素の排出を含めた環境負荷の削減は、持続可能な社会達成にとって不可欠な課題であると考えます。私の専門である建築の構造設

計の分野でも、鉄とコンクリートとガラスに代表される工業生産された材料は、建築の可能性を拡大してきましたが、同時に環境負荷も増大させることになりました。持続可能な社会に求められる建築を考える時、これまでのスクラップアンドビルドの建築スタイルを見直し、木や土といった自然素材の活用を考える教育が求められていると考えます。また地域性に目を向けることも大切で、その体験的教育の場として、積もった雪を利用して旅籠をつくる「雪旅籠の灯り」ワークショップを山形の月山志津温泉で地元の方々や学生たちと一緒にしています。



短期大学
生活科学科
岡田 悟 教授

1983年東北大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程満期退学。専門は近世住宅史。人の生活の容れ物である住宅からは、生活をとりまくインテリア空間や建築空間を通じて、多くのことを学ぶことができます。現在よりも科学や技術が未熟であった時代には、人は周囲の環境に敏感で、環境と上手に付き合ひながら生きてきた。現在においてもこうした知恵を活かした空間づくりに取り組んでいる。

主な担当科目

インテリア設計演習、インテリアCAD基礎演習 ほか



手描きとCADを使用した授業

手描きとコンピュータを使ったCAD(コンピュータ支援設計)とは、車の両輪のような関係であり、両方を共に学習するのが生活科学科の伝統。また、テキスト類は「住まいとインテリアデザイン」「建築設計資料集成」といった基礎的な知識やデータが載せられたものを用い、授業ではその応用力を高める方針である。

日々の暮らしを支えるインテリア空間こそ“環境”そのものであるという認識に基づいて、自分とその周囲を検討、考察する

Education policy 異なる価値観のぶつかり合いが新たな地平を生み出す

生活科学は生活者の学問であり、生活者は生産者と消費者の両方の性格を共に持つものです。つまり、生産者はしてあげる側の、消費者はしてもらう側の人間といえます。今まで学生諸君はしてもらうことが多かったと思いますが、今後はしてあげることができれば社会で信頼や収入を得られません。

学生時代はしてあげる人になる準備期間といえ、してあげる価値観を獲得する時期です。高校までとは異なる教育の中で、どのような価値観を発見すること

が出来るでしょうか？

環境の問題に限らず、従来思い描いていたイメージとは異なることを授業で聞いたりすることと思います。さらに、何を言っているのかさっぱり分からない先生がいればラッキー。自分とはかけ離れた価値観を持っているが故に分らないのであって、つまりは、自分にない価値観の宝庫なのです。異なる価値観をぶつかり合わせ、大いに混乱して新たな地平が開けるのです。

Main class 環境を空間という形で設計し、表現する孤独で厳しい作業に挑む

学生に「インテリアって何のこと？」と尋ねると「家具のこと」「カーペットやカーテンのこと」「壁飾りや置物のこと」などの答が返ってきます。いずれも間違いではありませんが不十分です。一方、「インテリアの反対語は？」と尋ねると答えられる学生は少数です。正解はエクステリア。門扉やフェンスを指します。

インテリアの領域が文字通り家具から置物までの「内部の」即ち「室内の」ことがらを扱うという時代は過ぎ去り、今は人が発生させる空間を扱うという考えが主流です。扉まわりは人が開けて通って閉めるという

点で人が発生させる空間であり、建物内であっても屋外にあっても間違いなくインテリアの要素です。

こうした新しい概念に立てば「インテリア設計演習」、「インテリアCAD基礎演習」はまさに環境を空間という形で設計し、表現することに他なりません。同時に、設計や表現については、その意味は教えられませんが、設計案、表現作品の作り方のハウツーはありません。従って、各自が知恵を絞り出して作り上げる他はなく、挑戦的で厳しい作業であることを肝に銘じておく必要があります。

地球環境問題を正しく理解し、 循環型社会をめざす持続可能なシステムを構築する方策を探る

Education policy 地球や地球上の他の生物たちとの共存・共進化をめざす

地球の環境は地球誕生以来数多くの幸運が重なり合って創り出されたものですが、人間活動の急速な増大が温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境問題を引き起こし、地球上の全生命の存続を脅かすようになりました。環境問題と共に、地球資源の枯渇・爆発的な人口増加・自然災害の大規模化と複雑化なども、早急に改善策を講じなければならない課題です。環境問題については1970年代以

降、多くの国際会議が開かれ様々な条約や宣言が採択されてきましたが、先ずは問題の本質を正しく認識して、共通の理解を得ることが出発点になるでしょう。その上で、今後も地球や地球上の他の生物たちと共存し共進化を続けるために、そして安全で安心な人生を全うするために私たちは何をなすべきか。この点を今、学生の皆さんに真剣に考えて欲しいと願っています。

Main class 地球環境問題・資源問題・自然災害について学び、自ら考える

教養教育科目の「環境・科学の諸課題」を1クラス担当しています。そこでは、地球への理解を深めるために地球と生命の歴史と現状について簡単に説明し、続いて地球環境問題の発生メカニズム・影響・対策と問題どうしの相互関係を中心に講義を進めます。更に、エネルギーやレアメタルなどの資源問題や地震・津波・火山噴火などの自然災害も状況に応じてテーマにします。2011年以降は、東日本大震災の原因となった巨大地震・巨大津波と原子力発電所の事故が提起した放射能の問題を取り上げ、災害への備えや発災時の対応なども検討しています。

家政学部の皆さんには、学部共通科目として「環境学概論」を開講しています。様々な講義や実習科目を通して環境学習に取り組んでいる学生たちが、衣・食・住・児童のそれぞれの専門分野に深く関わる環境課題に適切に対処できる実力を身に付けることをめざします。

これらの講義では、学生たちが各テーマを正しく理解して自ら考える力を養うために、私が担当する科目では「数学」「物理学」「統計学」などの考え方や知識が重要であることを伝えます。授業では、テキストの指定・資料の配布・映像教材の利用などによって、理解と関心を高めるように工夫しています。

家政学部
建築・デザイン学科

杉 憲子 教授



1976年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専門課程修士、理学博士。
専門分野は固体地球物理学で、海洋プレートが沈み込む地域のテクトニクスと地震のメカニズムについて研究を行ってきた。1995年の阪神淡路大震災以後は自然災害を、また21世紀を迎えてからは環境科学を研究テーマに加えた。更にここ数年は、科学の教育と普及にも力を注いでいる。著書に「新版地学事典」など、論文に「海洋プレートの一生」「自然災害に対する意識調査」などがある。

主な担当科目

環境・科学の諸課題、数学、統計学、基礎物理学、環境学概論ほか



テキスト・ビデオ教材と放射線量・UV強度測定器

「環境・科学の諸課題」と「環境学概論」では放射線量測定器と紫外線強度計を利用して、現代社会の営みが環境に与える負荷を測定する。また、環境問題のバイブルともいえる「沈黙の春」「奪われし未来」「成長の限界」の内容を随時紹介する。

本学の環境問題にかかわる授業科目の概要を ホームページでご覧いただけます。



<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/kankyo/index.html>



ゼミの活動紹介 (環境防災関連)

本学家政学部 建築・デザイン学科 林田ゼミナールの学生たちによる協力・協働により、以下のビデオが完成し、ウェブサイトで紹介されています。

環境 NGO「コンサベーション・インターナショナル(CI)」の活動紹介ビデオ

持続可能な社会の構築のためにCIが取り組む「生物多様性保全プロジェクト」について紹介しています

<http://www.conservation.org/global/japan/Pages/cijapan-activities.aspx>



「海洋管理協議会 MSC」の活動紹介ビデオ

『貴重な水産資源を未来まで～海のエコラベル認証制度 MSC』
環境問題を扱うWeb「グリーンTV」に掲載されています。

<http://www.japangreen.tv/ch03biodiversity/11077.html>



2015年度エコツアー

銀座ミツバチプロジェクト見学会
(在学生限定)

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、銀座の屋上でミツバチを飼い、採れたハチミツを銀座の一流の技でスイーツやカクテルにするなどの取り組みを行う団体です。この見学会では、実際に都市養蜂の現場を訪れ、養蜂だけでなく、ミツバチを通じた街づくりや環境学習活動についても知っていただければと思います。

特に環境学習活動では、本学家政学部児童学科も協力し、小学校や幼稚園を中心に出張講座等、取り組んでいます。この機会に環境の街「銀座」を探検してみませんか。



Navigator 田中 淳夫

株式会社紙ハルブ会館専務取締役。紙ハルブ会館の貸し会議室の講座で銀座の屋上を探す養蜂家が講師だったことがきっかけ。高安和夫氏とNPO法人銀座ミツバチプロジェクトを立ち上げる。現在株式会社銀座ミツバチ代表取締役社長

定員 ▶ 20名

日時 ▶ 5月29日 金曜日 13:30~16:00 (予定)

13:30 銀座紙ハルブ会館に集合

14:00 銀座ミツバチプロジェクト 田中 淳夫氏による講演
屋上見学

15:30 質疑応答

(銀座産ハチミツで作ったスイーツ&飲み物ティータイム)

*集合場所: 銀座紙ハルブ会館 東京都中央区銀座3-9-11

受講料 在学生 無料

2020年に向けて東京をよく知ろう!

江戸東京たてもの園
建築ツアー

建築を理解するには実際にその空間にたずみその空間を体験することが重要です。住まいは完成し住まい始めるとなかなか体験するのが難しい建築です。江戸東京たてもの園には、現在27棟の歴史的建造物が建ち並んでいます。その多くは住まいです。江戸時代の農家、酒問屋で昭和初期に居酒屋として使われた町家、大正末期の洋風郊外住宅、建築家堀口捨巳設計の住宅(小出邸)、昭和初期の看板建築と呼ばれる店舗併用住宅、戦中の建築家前川國男設計の自邸とバラエティに富んでいます。これら住まいの空間を実際に体験しながらその居心地についてお話しします。



Navigator 堀 啓二

共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科教授。東京藝術大学美術学部建築家卒業、同大学院修士課程修了、芸術学修士。1989年より建築設計事務所(山本・堀アーキテクト)共同主宰、建築設計を行う。実務の経験を生かし、建築設計演習を中心に担当。

定員 ▶ 15名

日時 ▶ 5月23日 土曜日 10:00~12:00

10:00~10:10 江戸・東京たてもの園 概要説明

10:10~11:55 見学

- ・農家(網島家) ・堀口捨巳設計(小出邸)
- ・前川國男設計(自邸) ・洋風郊外住宅(大川邸)
- ・店舗併用住宅(武居三省堂) ・町家(鍵屋)

11:55~12:00 まとめ

*集合場所: 江戸東京たてもの園 正面出入り口前(10:00)

受講料: 在学生 600円、卒業生 1,000円、一般 1,300円

お問い合わせ窓口

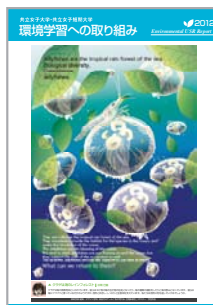
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
4号館学生課 共立アカデミー
TEL.03-3512-9981

▼ 環境学習への取り組み
バックナンバーのご案内

過去4年分のパンフレットが、
ホームページでご覧いただけます。



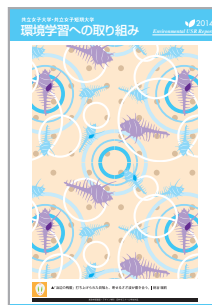
2011年度



2012年度



2013年度



2014年度

共立女子大学・共立女子短期大学
環境学習への取り組み 2015

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

編集: 学生課 監修: 国際学部 細野豊樹(教授)、生活科学科 三井直樹(教授)

共立女子学園 創立130周年
1886・ANNIVERSARY・2016

古紙/パルプ配合率100%再生紙を使用